緑化樹木の情報誌
緑化通信
2017 6月25日（年7回25日発行）第459号

発行所
一般社団法人 日本植木協会
〒107-0052　東京都港区赤坂6-4-22　三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361　FAX.(03)3586-7577
URL：http://www.ueki.or.jp/
E-mail：honbu@ueki.or.jp

購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料　5,000円

第二十七回森と花の祭典―「みどりの感謝祭」式典
秋篠宮同妃両殿下をお迎えして開催

「みどりの月間」に実施される各種緑化行事の締めくくりとして、健全な青少年の育成や地球温暖化防止、生物多様性に資する緑化運動の推進を目的として、5月13日（土）に秋篠宮同妃両殿下をお迎えして「第27回森と花の祭典―みどりの感謝祭」が「感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり」を大会テーマとして東京・イイノホールにおいて開催された。

「みどりの感謝祭」は農林水産省・林野庁、東京都、(公社)国土緑化推進機構、(一財)日本緑化センター、(一財)日本森林林業振興会、東京緑化推進委員会が主催し、本協会を含む71団体の協賛をもって開催されている。

式典は、日本ボーイスカウト東京連盟・ガールスカウト東京都連盟による開会宣言で始まり、主催者を代表して山本有二農林水産大臣の挨拶に続き秋篠宮殿下がお言葉を述べられた。

次に「みどりの文化賞」の顕彰が行われ、熊崎実氏が受賞された。氏は、農林水産省林業試験場、筑波大学、岐阜県立森林アカデミーに奉職後、（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会の会長に就任している。この間、森林資源に恵まれた日本でも木質エネルギーを増加させるポテンシャルは小さくないとの考えの下、中山間地域において、地域資源でのエネルギー自立を図りながら雇用を増やす目的で日本各地における取り組みの支援活動が評価されての受賞となった。このあと、苗木と花の特別贈呈として、平成30年全国植樹祭開催地（福島県）、平成29年度全国育樹祭開催地（香川県）、花いっぱい運動の代表の戸塚実氏（群馬県）に苗木と花が贈呈された。また、東日本大震災復興緑化用苗木が福島県川内小学校緑の少年団にも贈呈された。

その後、山火事予防ポスター用原画入賞の4作品の表彰が行われ、練馬区立大泉第二小学校合唱団による森と緑への賛歌が披露された後、福島県新地町緑の少年団による「誓いのことば」、八王子森林パトロール隊による閉会宣言で式典の幕を閉じた。

また、13日、14日の両日「みどりとふれあうフェスティバル」が日比谷公園内において開催され、関連団体、NPOや一般企業から多くの出展があり、あいにくの雨にもかかわらず多くの参加者で賑わった。

式典における秋篠宮同妃両殿下

総務・企画委員会
連絡調整会議を開催

5月18日（木）13時から協会・会議室に於いて連絡調整会議を開催した。出席者は正・副会長、専務理事、部会担当理事、ブロック長、各部会長（含青年部会長）及び事務局等23名。

会議は宍倉会長挨拶の後、船橋副会長が議長を務め議事を進行した。

会議では、各ブロック、部会から活動報告があり、意見・要望に対しては次のとおり。

1．ブロックの意見、要望

北海道・東北ブロック

近年の地球温暖化等により北海道南地域でも多種の桜が生育でき、ゴールデンウイークに花見ができるようになってきている。北海道には釧路桜、千島桜などがあるが華やかさに乏しいことから、協会において、本土の桜の耐寒性など寒冷地における植栽可能な種類などに関する資料を作成してほしい。東北の復興において、樹木が少なく物探しが困難となっている。また、積算資料や建設物価の単価について、産地農家の減少や生産コスト・輸送コストの高騰により単価の整合性がとれていないのではないかとの意見・要望があった。これらの要望等に対して、気候変動により地域植生に変化が見受けられるようになってきているが、今回の要望については協会が調査することが難しいことから、ブロックにおいて実態を調査しデータを収集していただきたい。データが収集された時点において協会において検討していきたい。また、単価については、両調査会への提出データがまだ少ないものとなっていることから、この調査への積極的な協力と、生産者が利益をえることができるような単価の提出が重要と思われると答えた。

関東・甲信越ブロック

特段の要望・意見はなかった。

中部ブロック

協会に外部からの問合せが多々あると聞いているが、どの様な問合せか、また、その問合せに対してどのような返答をしているのか。植栽基準はどうなっているのか。協会の委員会・部会について、今後の運営資金面を考えると統合も考えるべきではないかとの意見・要望があった。これらの要望等に対して、樹木の病害虫、手入れ方法等の問合せについては、社園に相談するなどして事務局において返答している。また、樹木の購入等については相談者の近くの社園を紹介している。工場設置等に伴う緑被率などについては法定植栽基準において定められているが、その権限は市町村に移譲されていることもあり、実態は掴めていない状況にある。委員会・部会等の統廃合については理事会でも問題視されており、次回の理事会において平成30年度組織について検討・提言することにしていると答えた。

関西ブロック

協会の知名度を上げることをもっと積極的に行っていただきたい。特にHPの閲覧回数を増加させるため、会員ではなく一般の人たちが検索しやすくできる方法を検討すべきである。限りある予算を有効的に使うため、事業の簡素化を進め良い事業の選択を願いたい。新しい意見を取り入れるために青年部など若い人たちの意見を積極的に聞き入れていくことが必要である。このため、理事会に青年部から常時2名程度の出席を考慮すべきではないかとの意見・要望があった。

これらの要望等に対して、検索媒体のキーワード処理は難しいことから、検索回数を増やす1つの手段として、各団体、各社園のHPへのリンクをお願いしていきたい。委員会の統廃合については次回理事会において検討していく。青年部との意見交換については、6月21日に理事と青年部幹事・支部長等との合同会議を実施し問題点等を検討していくと答えた。

中国・四国ブロック

観光立国に動き出した日本国だが、地方の都市緑化空間は東京とは比べ物にならない惨憺たる状況にある。このため、確たる予算を確保して維持管理を充実させ、観光立国に資する整備を願いたい。樹芸文化の発信強化を図り、日本が誇る樹芸文化を国内外に正しく発信すべきである。これらの要望等に対して、緑化に関して造園関連6団体を通じて働きかけを行うとともに、協会独自で国会議員、中央官庁等への働きかけを行っていきたいと答えた。

九州ブロック

会員の減少が続く中、特に次代を担う後継者・青年部の問題は緊要の課題であり対応を願いたい。また、協会員増加につながる対策として約款（準会員制度）の改定を求める。各ブロック、各県支部及び委員会等の再編・統合を進めていただきたい。全国組織である強みを生かし、協会員のメリットとなる政策を図っていただきたい。これらの要望等に対して、青年部は次代を担う後継者として大きな存在であり、強化は重要な課題として考えている。このことから前述のように理事会と青年部幹事等との合同会議を行うことにしている。準会員制度については、廃止した経緯を十分に考慮し新設に向けては慎重に検討としていく必要がある。積算資料・建設物価の価格を上げるためにも、調査データの提出数を増やすための方策を考えてほしい。各ブロック、各県支部及び委員会等の再編・統合については前述のとおり理事会において検討・提言することにしている。また、国会議員、中央官庁等の要請を行い協会員のメリットとなるような施策の確保に努めていきたいと答えた。

2．部会の要望・意見

コンテナ部会

平成27年度に作成した「ぱっと見ガイド」（病害虫防除編）が好評であったことから、第2弾「サクラ品種編」を作成するための一部助成を願いたいと。耐乾燥性試験報告書については現在作成中であるが、この報告書のPR版作成についての一部助成の要望があった。この要望に対して、「ぱっと見ガイド」、「PR版」については、前回と異なり広く一般への販売が期待できること、また、PR版についても宣伝効果が期待できると思われることから、一部助成について考慮していくと答えた。

庭園樹部会

協会生産者と連携して調査を行い、高級庭園樹木の写真集を作成してほしい。東京オリンピック・パラリンピックの会場施設への樹木導入について協会として積極的に参入願いたい。との要請があった。この要請に対して、写真集の作成については高額となるため厳しいものがある。HPを利用してのPR方法について検討してみたい。オリンピック施設への樹木導入については、造園関連6団体において情報収集に努めているが見えてこない状況にある。引き続き情報収集に努めてまいると答えた。

新樹種部会

昨年度カレンダーに代わる新樹種のPRツールとしてクリアファイルを作成したが、今年度も作成することにしており作成費の一部助成を願いたいとの要望があった。この要望に対して検討してみたいと答えた。

青年部会

青年部員が減少し財政的に厳しい状況にあることから、助成金の増額について検討願いたい。また、青年部への入部について親会から積極的に働きかけて欲しい。今後の青年部の活動を維持するため、準会員制度について見直しを検討しており、親会としての意見を聞かせてほしいとの要望があった。この要望に対して、助成金の増額については財政的に厳しいものがあるが、次代を担う青年部の活躍が重要と考えていることから増額については慎重に検討してみたい。また、協会も後継者問題については重要な問題として捉えており、現在後継者についての調査を行っているところである。青年部の準会員制度については、会則によって定められており、青年部において最良の策を検討していただきたいと答えた。

3．平成30年度通常総会（兵庫県）について

辰巳関西ブロック長から、平成30年度通常総会について、神戸市のANAクラウンプラザホテル神戸を会場として準備を進めているとの報告があった。

また、講演の講師については、候補者を絞り込み検討しているとのこと。

4．協会事業報告その他

事務局から次の報告事項があった。

1）中央官庁が公募する事業への申請が、調査・研究と物品の販売が可能となった。

2）(公社）国土緑化推進機構の「緑と水の森林ファンド」（中央事業）に「緑育」を申請していく。

3）樹木識別ポイント講習会、環境緑化樹木識別検定試験と植生アドバイザー育成講座について

地方かわら版

埼玉県圃場視察会

協会顧問　有村治子参議院議員と共に

埼玉県支部長　髙橋一男（大塚緑化）

4月22日（土）当協会顧問をお務め頂く有村治子参議院議員と国土交通省　公園緑地・景観課　緑地環境室長　古澤達也氏をお迎えし、埼玉県圃場視察会を実施しました。

支部からは、宍倉会長、秋山副会長、清水副ブロック長の他、正副支部長が参加し、また、事務局の佐藤氏にも参加頂きました。会長と有村顧問との話の中で植木の生産現場を実際に見る機会を持ちたいとのご要望から今回の視察会が実現しました。

当日は『軽快な服装で』との申し合わせの通り、午後一時過ぎ唐川秘書を伴い、安行の「埼玉県花と緑の振興センター」集合場所へ颯爽とおいで頂きました。古澤室長、他の参加者も皆集合し、挨拶の後、振興センター応接室にてレクチャーを受けました。今日の緑化の課題等振興センターのプログラム説明の中で説明頂きました。その後園内の屋上緑化のマットや植物を見学し圃場視察に出発しました。

限られた時間の中、宍倉会長の運転するワンボックスカーと後続の車計二台で出発し、まず初めに柴道昭氏宅を訪れ、氏の圃場の貴重な植物を直接解説頂きながら見学しました。その後、安行台地から見沼田圃に向かい、見沼を一望できる古刹、国昌寺で下車し、雑木林・斜面林・田圃の構造改善で出来た植木の畑をつぶさに見ながらの視察となりました。見沼田圃は首都圏20～30㎞に位置する1257ha余に及ぶ大規模緑地空間です。緑化樹木需要の最盛期にはその多くが植木畑で占められ埼玉の多様な植木の生産拠点となりました。現在の農業全般の課題同様、高齢化や後継者不足、価格の低迷などから生産の減少や土地利用の転換が見られます。また土地の持つ治水機能の維持の観点から利用制限もあり土地所有者の将来への課題となっています。秋山副会長より今後の土地利用に対する希望を含めた説明がありました。

当日は近くにある埼玉スタジアムで浦和レッズ戦があり、試合終了後の車のラッシュに遭遇する事が予想されました。早速車に乗り、秋山副会長の出荷場を車上から眺め、㈲グリーンファームアンドウのコンテナ圃場に下車し、施設内を見学しました。社長の安藤氏より現状の説明がありました。その後本日最後の視察先となる㈲栗原緑地を訪れ、栗原隆治氏より案内を受けました。植木輸出や大型コンテナによる東京オリンピックの緑陰形成などが話題に上り、色々な形で利用される埼玉の植木を見て頂き、ほぼ予定の圃場視察を終えました。

（追記）

18時より地元安行の『割烹かねこ』において懇談会を開催しました。長時間の視察の後でしたが皆疲れた様子も見せず、杉浦副支部長の司会進行で意見交換が交わされました。宍倉会長の挨拶の後、有村顧問からは親しみを感じる身近な距離間から、多くの示唆に富む貴重なお話をお聞きすることが出来ました。また古澤室長にも東京オリンピックに向けてのお話や、現在の緑化関係の貴重なお話等お聞きすることが出来ました。懇談会には、圃場視察に参加出来なかった支部会員、青年部の会員も新たに加わり、それぞれが自分の持つ意見や質問等を述べあい、和やかな雰囲気の中で有意義なひと時となりました。最後に、政治家有村顧問の今後のご活躍と協会員の健勝を祈念し、散会となりました。参加下さいました皆様大変有難うございました。感謝

ポットの栽培のお手伝い

㈲栗原緑地にて

地方かわら版

「福井県　清水　ナウ!!」

中部ブロック　清水洋樹（㈱清水植物園・福井県）

今、福井県は来年に国体をひかえ、北陸新幹線の工事も本格的に始まり、高速道路、ダム、それに伴う民間の施設投資等、小さい県のいたるところで土木工事をしています。それに伴い緑化工事も増え、弊社圃場の樹木もそれに伴い今まで出荷できなかった樹木が使ってもらえるようになってきました。

弊社は主に大小様々なクロマツ・アカマツ等の生産を約30haの圃場でしていますが、私が手伝い始めたころは大量に植えて、掘って、積み込むくらいで1年が過ぎていました。最近はマツの大量出荷が減った分、圃場で眠っていた少し変わった樹形の樹やマツ以外の樹種を植え替えて盲頭で書いた民間の需要に使ってもらえるよう努力しています。良いのか悪いのかわかりませんが、私個人としては樹種の特徴を確かめながら作れるので発見があって楽しいです。また、圃場がすこしずつ整理できてきたので新植も増やしていけるのかなと密かに喜んでいます。いつでも問い合わせが来た時に「やります！」と即答できるように空いた圃場に植え込みをしていきたいです。

また、弊社では一般の方に緑に親しむ場作りとして4月中ごろからゴールデンウィークが終わるまで園内のシャクナゲ園をPRして見に来ていただいたり、「グラウンドゴルフ」というスポーツや観光で園内の緑を楽しんでいただいています。私の小さい頃から今までに園内は、いちご園→果樹園→ショートゴルフ場→グラウンドゴルフ場、と様変わりしていますが、緑の中でというスタンスはかわっていません。父の地域の皆さんへの恩返しの思いもあったのでしょうが最近、忙しさにかまけて園内の整備がおろそかになっているように感じます。反省しつつ、父や兄に遠慮しつつ・・・スキを見て・・・しなりとやる（笑）のが難しいところですが、圃場と同様に発見を楽しみにしているところです。

さて、私は植木協会の事業で大好きな「日本列島植木物園」にしつこく（笑）参加しています。緑や生産やアイディアをアピールできる良い場だと考えています。私は難しいことは苦手ですが楽しいことは大好きです。「日本列島植木物園」の研修で自分にない発想や、自分ができないとあきらめていた事を実践している方々のオーラにふれるとリフレッシュできて「やる気」がでます。いつか私もそんな方々の仲間入りができるように、また、もっと自信をもって自社園をアピールできるように圃場や園内に力を入れて楽しんでいきたいと考えています。

最後に、福井にいらっしゃる機会があれば是非お声掛けください。ついでにマツの問い合わせもください（笑）植木を探しているときは助けてください（笑）

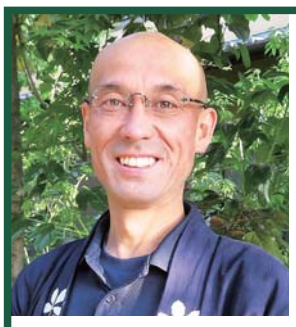
最後はお願いばかりになって題目にそった内容ではありませんでしたが、福井支部（弊社オンリー）と私の今はこんな感じです。

さあ皆さん　今、目の前にある樹の良いところを見つけて、作って、使ってもらいましょう！

高台からの植物園内

シャクナゲ園

マツの圃場にて



リレー連載 **うえきのちから ～植木が届ける宝物～**

株式会社中央園芸　代表取締役社長　**押　田　大　助 氏**

押田大助プロフィール
株式会社中央園芸　代表取締役社長
1973年埼玉県寄居町生まれ
国士館大学文学部地理学専攻卒業後、祖父の経営する中央園芸（植木生産、販売）にて植木業の道へ。2001年の独立後は、草刈りや街路樹剪定等の植栽管理業務を主体とした仕事に従事。2011年の東日本大震災を契機に、自然環境に優しい「雑木の庭」づくりを始める。現在は「大地の再生講座」で学んだ、通気浸透水脈を取り入れた庭づくりや樹勢回復、環境改善をメインとして活動中。NHK テキスト「趣味の園芸」でも通気浸透水脈についての記事を掲載される。

「なぜ木を植えるのか？」そう問われた時、あなたは何と答えるだろうか？

花や実を楽しみたい！ウッドデッキに木陰をつくりたい！隣地との目隠し、風除けとして…

木を植える事は、人それぞれ様々な理由があり、意味を持っている。

弊社モデルガーデン

以前、大地の再生講座（杜の園芸、矢野智徳氏　主催）に参加した時、「自然の大地は、土と木（植物）と石でできている。」という話を聞いた。土と木と石…。

そう言われてみれば、山に行っても、川に行っても、海に行っても、確かにそうだ。どこに行っても土があり、木があり、石がある。そして単純にも、たったこの三つの組み合わせで、自然の野山はすべて構成されていることに気付く。

高速道路の上信越道、妙義山や軽井沢付近を走っていると、山の中に大きな岩山が点々と見られる地域がある。断崖や岩の斜面から、木々は生い茂り、それは大雨が降っても崩れることなく、我々に荒々しくも美しい景観を見せてくれる。急峻な斜面でもどうして崩れないのか、土砂はなぜ流れないのか、いつも不思議に思っていた。土と木と石。岩山や土砂を支えているのが、樹木や植物の根っこだということが分かった。

それは、現代の土木工事でも困難であろう、急峻な斜面や軟弱な地盤でも、植物はしっかりと根を張り、大地や地形を支えている。しかも面白いことに、その場所に適した（必要な）植物が自然と生えてくるようになっている。

現代の住まいの環境に目を向けてみると、周囲を建物の基礎やコンクリートブロック、舗装道路などに囲まれ、空気や水の逃げ場がないところが多い。近頃水はけの悪い庭が多いのは、空気や水の流れるところ、抜けるところがないからだ。

大地の再生講座（東京稲城市にて、2016年11月）

以前は石を積み土留めをしたり、素掘りの側溝（土側溝）などもよく目にしましたが、今ではコンクリートブロックや擁壁、U字側溝がほとんどになりました。

一見、機能的で合理的に見える現代の土木工法ですが、皮肉にも空気や水を遮断し、停滞させるところが多く見られます。

そんな環境を改善する方法を、「大地の再生講座」で学びました。「通気浸透水脈」の整備です。

深さ20cm程度の溝を掘り、透水管（コルゲート管）を埋設、炭を入れ、有機物（竹や剪定枝）を絡めていきます。所々には縦穴も掘り、大地に水を浸透させます。水脈が通り、有機物（竹や剪定枝）が腐植する頃には、付近の樹木や植物の根が侵入し、通気が確保され、水脈を守っていきます。水脈の要には必ず樹木や下草を植えます。植物の根の働きにより、永続的な通気浸透水脈が出来上がります。

土壌中の通気を促し、大地にしっかりと水を浸透させることで、水はけや土中環境は改善されていきます。その結果として、樹木は穏やかに成育、害虫の発生も抑え、いわゆる自然林のような環境に限りなく近づいていきます。

僕がなぜ木を植えるのかと問われれば、現代の住環境や土壌環境を改善させ、さらには地形を支え、水脈を守るために木を植えるのである。いわば、樹木なしでは環境を維持、改善していくことは不可能だと思う。

木を植えることにより、土壌環境が改善された結果として、樹木は我々に美しい景観や心地よさ、涼しさをも提供する。目に見えない土の中の環境を整えることにより、人々にとっても心地よい環境が出来上がるのだ。

通気浸透水脈

透水管の設置

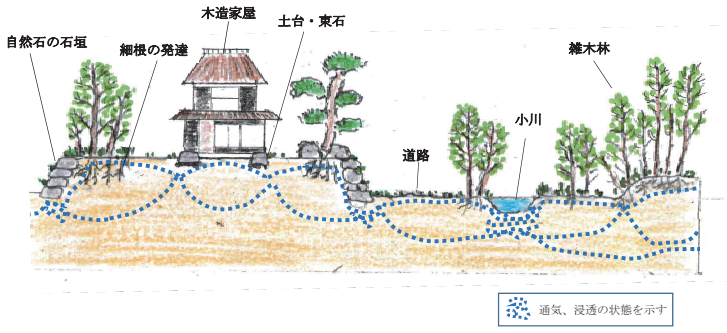
木の周り

施工中

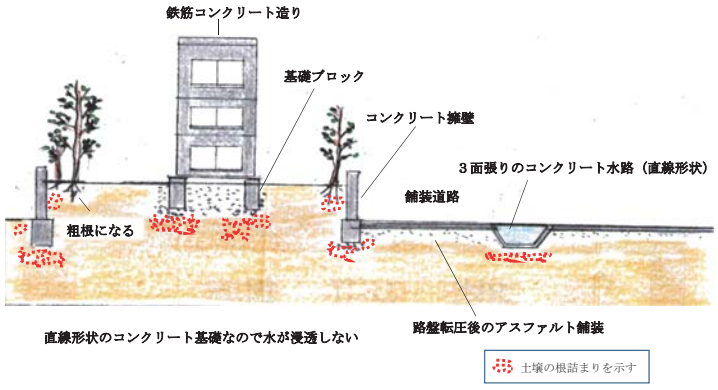
植栽後

建物とその周辺の環境変化

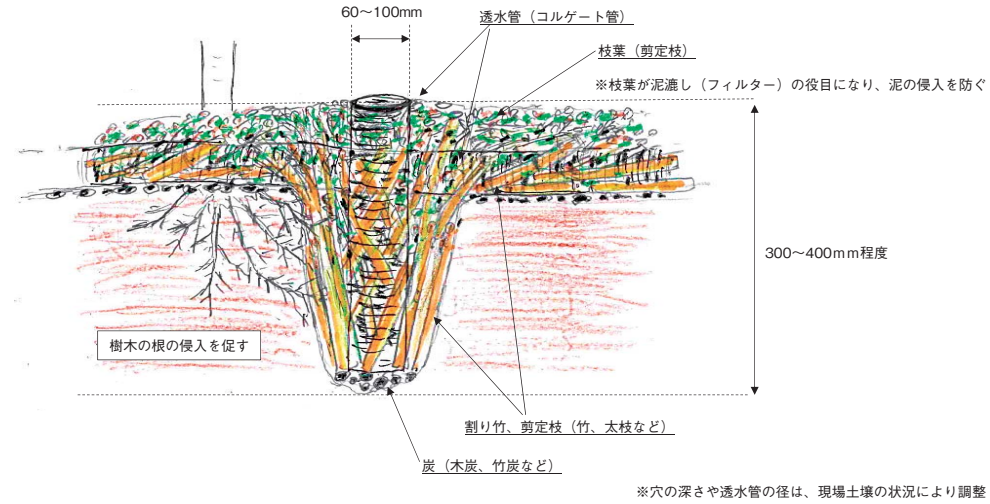
①かつての建物
かつての木造建築や、自然石の石積みや素掘りの水路は、適度な隙間があり、空気と水の入れ替わりが常に行われていた。植栽も細根が発達し、健全な状態に保たれていた。



②現代の建物
建物、敷地外周土留め、アスファルト舗装、コンクリート水路等、空気と水が土壌に浸透しない人工物で仕切られてしまった現代。土壌は目詰まりを起こし、大地における空気と水の循環が滞る。植栽も粗根となり、不健全な状態となる。



通気浸透水脈　断面図



※穴の深さや透水管の径は、現場土壌の状況により調整

香り…雑感。　第12回
花粉症について

足澤　匡（小岩井農牧㈱・岩手県）

スギ花粉が多く飛散する春、今年も花粉症に悩まされた人はたくさんいたと思います。しかし、私はスギの花が終わっても、マスクを手放せない日々が続いています。そもそも花粉症のメカニズムは、花粉が鼻の粘膜に付着し、体内に抗体が作られ、アレルギー反応を起こすのですが、遺伝、生活習慣、ストレス、排気ガス、なども複雑に影響しているらしいのです。また、植物の種類によっても、個人差があるのですが、私の場合は、スギに続き、ヒノキ、ハンノキ、シラカバ、オオアワガエリ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、と秋まで続きます。中でも、「オオアワガエリ」と「カモガヤ」には、特に強く反応するために、花期の重なる盛夏は一番辛い季節になります。この２種は、イネ科の多年草です。オオアワガエリは、「チモシーグラス：*Phleum pratense*」、カモガヤは、「オーチャードグラス：*Dactylis glomerata*」で、どちらも５～８月に花を咲かせるのです。河川や法面の保護にも使われ、野生化もしていますが、私が所属する会社が経営する小岩井農場の牧草地には、牛の餌として当然大量に植えられています。ですから、マスクを手放せない日々が続いています。

私にとって最大の天敵、カモガヤ（オーチャードグラス）の花

ところで、今まで挙げた植物は、全て「風媒花」です。「虫媒花」は、昆虫に花粉を運んでもらうために、昆虫を呼ぶ様々な工夫、戦略をそれぞれ持っています。例えば、目立つ花弁、甘い蜜などを用意したり、魅惑的な香りを発したりしますが、「風媒花」は、大量の花粉を晴れて乾燥している日に、ただただ撒き散らすだけなのです。（「風媒花」に対して「恨み」を持っている訳ではないのですが…）ただ花粉を風にばら撒くだけの「風媒花」ですが、植物種によって、微妙な匂いがします。例えば、イネ科の牧草の花粉は総じて、クリノキの花にも似た、ムッとするような、重苦しい「臭い」がするのです。ちなみに、水田の「イネ（アジアイネ）：*Oryza sativa*」は、牧草と違って、なぜか芳醇な香りがしますよ。是非機会があったら、嗅いでみて下さい。

私は花粉症のために、「風媒花」の花粉の匂いをあまり嗅ぐことが出来なくなりましたので、誰か代わりに嗅いで頂けないでしょうか？

楽しいレポートをお待ちしています。

私はというと、まだまだマスクを手放せない日々が続いています。

シラカンバの雄花と雌花。見ているだけで、鼻がムズムズしてきます

シリーズ　賛助会員紹介　No.2

早瀬工業株式会社

「緑化資材を通して　人々の生活を豊かにする」

早瀬工業株式会社は、昭和28年2月15日創業で今年創立64年を迎えた会社です。

創業時より「紙の撚り紐」を製造販売し、角底紙袋の取っ手紐やお土産物の結束・化粧紐として又裁縫箱やゴミ箱の装飾用紐として幅広い分野で使用されてきました。その後、セロハン印刷加工・漁網糸の撚糸業等、業容を変えながら製造業としての技術を磨いてきました。

現在、緑化事業関連の仕事をさせて頂いているのも紙紐業からの発展形で、30年程前わら縄が将来減少して来るとの事から、〝わら縄に代わる紐〟として耐水性紙紐「ケミカロープ（G）」を発売しました。其のご縁で現在では、緑化木の生産・流通・出荷・植栽・管理など全ての過程に関わる資材を販売しております。

その〝わら縄に代わる紐〟としての耐水性紙紐「ケミカロープ（G）」ですが、天然のわら縄のように長さや太さが不均一だったり、ケバが有ったりゴミが出たりカビが生えたりとデメリットの方が多い紐ではなく、工業製品ですので、均一な太さと長さが保障されており全く衛生的な紙紐です。規格もわら縄と同じように1分から3分まで揃っております。是非一度お試しになってください。

また、弊社の根巻用麻布（三角・四角）は、サイズ毎に色糸が挿入されており、現場での識別に大変重宝されております。カット面も綺麗でホツレていません。大判サイズでは、120cm・130cm・140cm・150cm・200cmの扱いもありますし、特注サイズもお受け致しております。

緑のコーディネーターとして

日本の豊かな自然や四季を次世代の子供たちに残していけるよう、業界No.1企業を目指し全国の緑化事業関係者に麻布製品をはじめ各種資材・機材や有益な情報を提供し続けています。単に生産・造園・流通資材の販売に留まらず、全国の緑化木の樹種・規格・数量等の情報提供やご紹介等色々なご相談やお問合せに応じています。

今後も緑化関連の総合商社・よろず屋として「早瀬工業に言えば何でも解決する」を目指し、皆様に頼りにされる企業として成長してまいりますので、引き続きご愛顧のほど宜しくお願い致します。

麻縄

バインダー紐

しゅろ縄

PP コード

幹巻・根巻

標識テープ

三角・四角根巻布

不織布ポット

日本列島植木植物園　ナショナルプランツ　コレクション※

斑入りの紫陽花

東京都・石川園　石川　剛　㊐042-558-1627

紫陽花の葉は緑のイメージがありますが、斑入りやカラーリーフの紫陽花もあります。

斑入りでもレモンウェーブの様な黄色と白の斑が入るものやガクウツギでも斑入りやカラーリーフの物、色々な組み合わせで花が咲く前や咲いた後も楽しめるでしょう

コイジガハマ 恋路ヶ浜
Hydrangea macrophylla ‘Koijigahama’

イヨカンセツ　伊予冠雪
Hydrangea serrata ‘Iyokansetsu’

オウカン 黄冠
Hydrangea serrata ‘Oukan’

ゴールデンサンライト
Hydrangea serrata ‘Golden Sunlight’

シロシマチリフ　白縞散斑
Hydrangea serrata ‘Shiroshimachirifu’

ハツシモ　初霜
Hydrangea macrophylla ‘Hatsushimo’

フイリアマチャ　斑入甘茶
Hydrangea serrata f. amacha ‘Fuiri’

フイリコンテリギ
Hydrangea scandens

レモンウェーブ
Hydrangea macrophylla ‘Lemon Wave’

※ナショナルプランツ　コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、 植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

お礼

木へんの漢字湯呑み

今年販売しました青年部会福岡支部製作の「木へんの漢字湯呑み」が、おかげ様で沢山の受発注がありましたことを、ご報告とともに、お礼申し上げます。どうもありがとうございました。

青年部会福岡県支部長　田篭　功

地方かわら版

「第33回　全国都市緑化よこはまフェアの開催に際して」

生駒植木株式会社　生駒　順（神奈川県）

横浜市の緑化業界が、長年にわたり開催を希望し、誘致活動を行ってきた全国都市緑化フェアを、3月25日から6月4日の会期で開催することができました。開催にあたりご尽力下さいました多くの皆様に改めて感謝申し上げます。

よこはまフェアの愛称は「ガーデン・ネックレス」です。花や緑が、人・町・時をつなげるというコンセプトに基づき、「みなとガーデン」と「里山ガーデン」の2つの拠点をメイン会場として様々な工夫がなされました。横浜のもつ「開港の近代的な舞台」と「郊外の自然的な舞台」を生かしての会場設営は、広く皆様に横浜らしさを知っていただく良い機会だったと感じています。

「みなとガーデン」は、桜木町駅からみなとみらい地区、山下公園、港の見える丘公園までの約4㎞が花と緑でつながり、横浜開港と洋館をテーマに、バラ・チューリップ・サクラを中心に彩られた会場を散策できるようになっています。

サクラに関しては1912年に日米友好の証として、横浜港からワシントンに渡ったシドモア桜と呼ばれる12品種が歴史的背景から展示植栽されました。

「里山ガーデン」は、横浜の特徴的な地形である「谷戸」を生かした自然美溢れるもので、菜の花、カキツバタ、サクラなどで彩られています。横浜市内で生産された花で埋め尽くされた大花壇や、森を楽しむ散歩道など、春の里山を満喫できます。

森の空中散歩道より望む大花壇（里山ガーデン）

日本大通り

谷戸に広がるショウブ田（里山ガーデン）

港の見える丘公園（イングリッシュローズの庭）

桜木町駅前のサクラコンテナ

横浜市の用意したストックヤードに、植物生産業者が直接材料を納品し、その場で横浜市と調達協議会が検品するため、生産者にも緑化フェアに参加しているという自覚と責任感が生まれ、励みになります。納品から施工までの期間はストックヤード管理業者が責任を持って管理・育成を行います。このように品質管理された植物材料が施工業者によって適正に植栽されるので、常に最高の状態で来場者を楽しませることができるのです。

本フェアは72日間という長い会期のため、花期ごとの植え替えが必須であり、植物選定や開花調整など植物供給業者としての知識や経験が試される場でもありました。特に桜木町駅前のサクラの展示は設置から撤去までわずか1週間で、その間に開花させなければというものでした。多方面の知識賢者の御教示のおかげで、満開とはならずとも無事に開花させることができたことは印象深い体験でした。

今回、このように大きなイベントに携わることができましたことは大変光栄なことであり、また貴重な体験でありました。前例のない事にも積極的に取り組み、高度な要求に対しても皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

里山ガーデンの大花壇

平成29年度 北海道・東北ブロック 通常総会・研修会を開催

田村政則（有）田村山林緑化農園・秋田県）

平成29年2月14日（火）北海道 函館市「花びしホテル」にて午後3時より会員14名、来賓2名の計16名の出席者のもと通常総会、研修会を開催しました。

通常総会

小高副ブロック長の開会宣言に始まり、安瀬ブロック長の挨拶、来賓として秋山副協会長より祝辞をいただき、安瀬ブロック長を議長に選任後議事に入りました。

第1号議案　平成28年度事業報告、決算報告及び監査報告

第2号議案　平成29年度事業計画及び収支予算（案）

第3号議案　監査役欠員による補充について

㈱斎藤造園　齋藤　悟（山形県）氏にお願い致しました。

第4号議案　決算時期（総会）変更について

決算時期を本協会と同じにしていたが、役員改選時に時期的に不都合があるとの事で、協議の結果、これを第5号議案とし、今までの11月決算を6月決算に変更し、第2号議案を12月1日～6月30日までに変更しました。また7月1日より新年度とし、総会を8月に開催する事に決定した。

その他・報告

＊　震災復興公園の進捗状況についてブロック理事の菅原氏より説明を受けた。

＊　協会より依頼のあった供給可能量調査・社園別生産数量調査の公開の可否については可とすることに決定した。

最後に協会専務理事の佐藤氏より協会報告を受けたのですが、時間オーバーにて次の講演会の山口さんを待たせる事態になり、早々に報告を終わらせてしまいました事は、誠にもって申し訳ない次第です。以上をもって通常総会は無事終わりました。

研修会　（16時15分～17時15分）

講演　㈱サン・ガーデン専務取締役　山口展正（やまぐち　のぶまさ）

演題　「サン・ガーデンの室内園芸」

15分遅れの研修会になった講演会、北海道恵庭市に所在する㈱サン・ガーデンの概要として花壇苗、野菜苗、宿根草苗500種類以上を300万ポットの生産卸、ガーデンショップ及びカフェ営業、造園緑花工事設計施工など多角経営の会社です。

講演者である山口氏、経営の中枢を担う山口氏の風貌が業界関係者には見えません。一見IT関連かミュージシャン（実際CDを発売しているミュージシャンでもある）又はデザイナー的な風貌です。その山口氏よりサンガーデンの冬場におけるハウス内での生産工程という事でドラムシーダーによる種蒔き、設置場所のベンチ下には、温水ボイラーが配管され、その他空中の保温のために、新ボイラーと気温ボイラーを併用してマイナス5度以上だと新ボイラーのみが稼働し、設置温度に達しなければ、気温ボイラーが作動するとの事です。ちなみに、この気温ボイラー、灯油が100円／ℓならば3年でもとが取れると計算しています。なおハウス育苗棟は外ビニール＋内サニーコート＋ベンチビニールの3重構造で成り立っています。鉢上げ用土は、自社で作っていて「基土」として火山レキの混合したものを蒸気消毒機にて消毒後、ピートモスや、もみ殻燻炭他をブレンドして作っているとの事です。規模の大きい会社ですから、もちろん大型のポッティングマシーンやポリポットサーバーを使用してのポット詰など合理化にも余念がないという感じです。

後半では、当社の植栽事例を紹介された有名なところでは、札幌通り公園の花壇や札幌東武ホテル中庭の壁面緑化、地元恵庭市駅前の花壇植栽など北海道のあちこちで設計施工及び材料支給をされています。最後にテレビや新聞での山口さんの広報活動事例などを紹介され、大変実りのある講演を拝聴させていただきました。

懇親会　（18時15分～

ひと風呂浴び浴衣に着替え、講演者の山口さんを加えての懇親会、中国・四国・九州ブロックを合わせた面積を持つ北海道・東北ブロックの場合、一同が会するとしてもなかなか難しい側面もあり、その分久しぶりさも加え積もりに積もった話が夜遅くまで続きました。

連載 第２回

都市緑化の価値と意義

緑の誘客効果

東京都市大学環境学部客員教授　博士（デザイン学）　加　藤　真　司 氏

プロフィール：
名古屋大学農学部卒業後、建設省（現国土交通省）に入省し、以後主に都市公園の整備を中心としたまちづくり全般に関する行政に関わってきた。その過程で、沖縄の首里城の復元事業や美ら海水族館整備事業、それに国営吉野ケ里歴史公園の計画策定をはじめとした各種プロジェクトの他、日本の伝統園芸植物の保全手法の研究などに携わってきた。2008年より国立研究開発法人建築研究所にて主に都市緑化に係る研究を進め、2017年４月より東京都市大学環境学部客員教授を務める。博士（デザイン学）。

我が国の都市の緑はまだまだ少ないと感じますが、地価の高い都市域ではなかなか緑化のスペースが確保できないのが実情です。そんな中で新たに土地を購入する必要がない屋上緑化や壁面緑化などの建物緑化は、都市の緑の量を確保するための貴重な手段と考えられます。建物緑化は、屋内の温熱環境の改善や都市景観の向上、そして都市のヒートアイランド現象の緩和などの様々な効用を有しますが、まだまだ期待通りに整備量が増えているとは言えません。その最たる理由の一つに、設置に伴う受益が必ずしも費用負担者に還元されていないことが挙げられます。都市の建物の大部分は民間が所有するものですから、当然にその建物に設置される緑化も民間の建物所有者が通常は整備します。ですが、都市の景観が向上したり町が涼しくなったとしても、それは市民皆が等しく享受できる便益であり、それを緑化設置者だけが負担するのはあまりに不公平です。そうした費用負担と受益の関係を示したのが図１です。

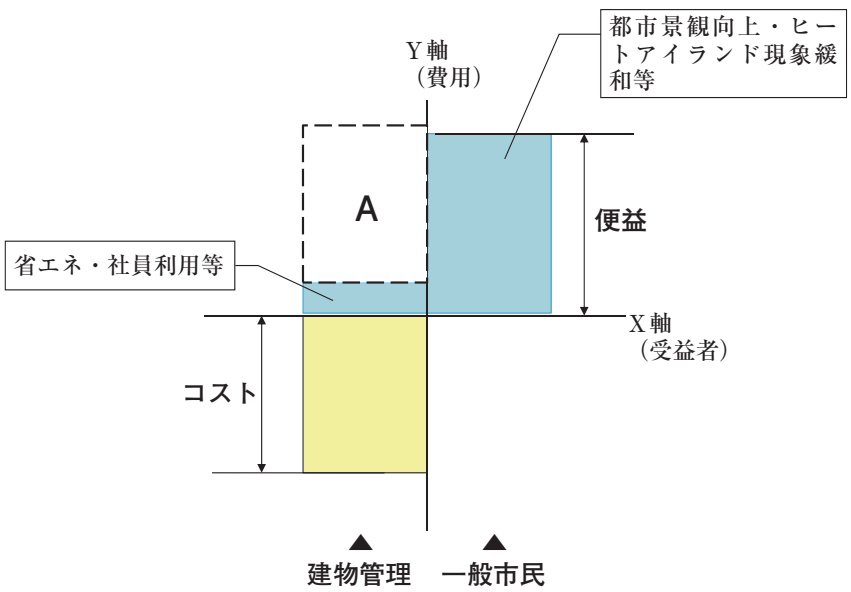
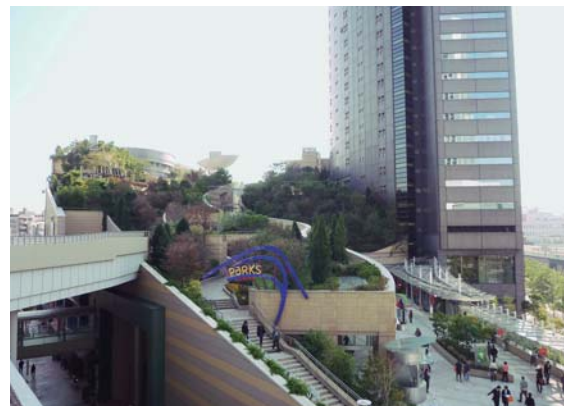


図１　民間が整備する建物緑化の負担と受益の関係

この図からは、建物管理者だけが享受できる便益は、屋内の温熱環境改善効果や緑化をプライベートな空間として直接活用する場合に限られ、それらは設置費用に対して微々たるものだということが分かります。ちなみに、図１のAの破線の枠は、緑化の推進のために必要な建物管理者が受け取るべき便益を示していますが、ここがブランクなのが問題です。行政が条例で緑化を義務付けたり、緑化のための補助金を拠出したりするのは、このブランクを埋めるためだと理解すれば分かりやすくなります。

それでは民間施設において建物緑化を造ることは損なことなのでしょうか？実は、民間施設であっても自主的に整備されている例はたくさんあります。それらの設置動機を調べたところ、商業施設における誘客目的と自社のPR目的（イメージアップ）が大半を占めました。つまり、こうした便益は、企業からすれば十分に割に合うものだと判断されていると考えられます。ところで、図１でそうした便益がどうして積み上がっていないのかという疑問が生じますが、実はこの便益は一般市民に対するアンケート調査結果から得られた便益なので、直接的に市民が便益を享受できる分しか積み上がっていません。緑の多い商業施設に、その環境につられて多くの客が訪れ、結果的に売り上げが上がるといった間接的な便益は想定されていないのです。



なんばパークス

なんばパークスの森の中

このため、緑の誘客効果を算出するために、大規模な建物緑化で有名な商業施設（なんばパークス：大阪）を対象に調査を実施しました。なんばパークスは建物をテラス状にデザインし、その屋上や壁面を大々的に緑化した商業施設です。公園のような屋上緑化には、菜園や子供の遊び場も設けられ、木陰で読書する人の姿も見られます。誘客効果調査の実施方法は、なんばパークスに訪れた利用客を対象に、面接方式で来訪動機と消費額を尋ね、それから緑化によって創出された消費額を求めたものです。調査の結果、緑化による来訪動機が一人当たり平均18.2%になり、一人当たりの消費額は平均1,155.2円になりました。これに年間利用客約2,920万人を乗じ、さらに晴天の割合（100日／365日）を乗ずれば、緑化によって創出された売上額は約92億４千万円を得ることができます。これに一般的な小売業の平均的利益率（2.1%）を乗ずることにより、年間利益は約１億９千４百万円を算定することができました。本研究結果はかなりセンセーショナルな内容だったので、雑誌「日経アーキテクチュア」にも紹介されて注目を集めたところです。緑化は人に癒しを与え、景観を向上させます。そうした人が主観的に感じる効果を演出することによって多くの人を導き、間接的に売り上げを伸ばすということは、緑化の機能を間接的に活用する手法として重要です。その利益は図１のAのブランクを埋めて余りあるものです。本研究成果は建物緑化を対象とした調査結果ではありますが、都市緑化全てに当てはまる内容だと考えます。都市緑化の設置にはこのような設置者が求める便益を意識した戦略的な取り組みこそが必要ではないでしょうか。

調査風景

コンテナ農場（100 万本生産）

コンテナ農場

オリーブ

カンツバキ赤花と白花

㈱瀬戸内園芸センター

緑は地球を救う

愛媛県今治市旦甲 248-1　TEL 0898-48-0010（代）　FAX 0898-48-8187
http://www.setoen.com/　E-mail : setouchi@setoen.com

主な生産物
クロマツ　コニファー類　ヤシ類
カシ類　クスノキ　タブノキ
モチノキ　ウバメガシ　オリーブ
カクレミノ　クロガネモチ
サンゴジュ　シマトネリコ
マテバシイ　ヤブツバキ　ヤマモモ
レッドロビン　オウゴンマサキ
カンツバキ（赤花と白花）　サザンカ
シャリンバイ　ツツジ類　トベラ
ハマヒサカキ　ヒサカキ　ミカン類
サクラ類　イロハモミジ　ハナモモなど

連載第２回　「植物たちのハーモニー」

風土が決める色彩の美しさ

景観デザイナー・園芸療法士　槇　島　みどり 氏

プロフィール
日本女子大学卒業　学術博士
東京農業大学客員教授

色彩や香など五感刺激を活かした造園、空間計画を得意とする。ハーブや植物療法の先駆者。身近な園芸から公共施設まで、心地よい空間づくりを幅広く実践している。
<主な作品>
『お台場地区ウォーターフロント』『東京ビッグサイト外構』『リストランテ・ジャルディーノ』『山陽道権現湖 PA』『国営えちご丘陵公園「暖の館」「イングリッシュガーデン」』『チュニジア大使公邸』『多摩川アートラインプロジェクト』　他
<主な著書>
『ハーブで美しくなる』『ハーブ新来の香草たち』『ボタニカルアートの世界』『ハーブ図鑑110』『ハーブを楽しむ本』『楽しいハーブ入門』『知りたがり屋のハーバルライフ』『Herbal Tea』　他

感性を軸に空間を組み立ててみれば植栽の質を見直すきっかけになるのではないかと述べたのは前回。質の向上には個々の植物の特徴や魅力を引き出す必要があることにも触れました。

葛飾北斎　版画「アジサイに燕」

季節柄の魅力的な植物として多くの人がアジサイ *Hydrangea* を思い浮かべます。目を見張るほど華やかなモノから繊細で優美なモノまで、これほどに美しく変化に富んだ品種が登場してくるとは…紫陽花に日本妻（？）の名 *H.otaksa* を冠してヨーロッパに紹介した彼のシーボルトでさえ思いもよらなかったことでしょう。夏の季語でもあるアジサイは、過去の記録も併せると、現在までに100近くの市町村が地域の花としており、人気の高さがうかがえます。

夏もなほ心はつきぬあぢさゐの　よひらの露に月もすみけり

藤原俊成

あぢさゐの下葉にすだく蛍をば　四ひらの数の添ふかとぞ見る

俊成の息子　定家

露に宿る月明かりや葉陰に点じる蛍と共にある黄昏から夕闇への景が、紫陽花に添う静けさの中の風情として歌われています。

新緑の時期を過ぎて梅雨に入ると、高温多湿の毎日に辟易して北海道やヨーロッパの気候をうらやむのは私ばかりではないはず。明緑色の透明な光を地に落としていた頃が懐かしく思い出される木立や草たちの葉は、この頃すっかり濃緑に変化しています。梅雨の晴れ間の陽光はすでに強烈。色彩の強い対比は私達に暑さを実感させます。

配色①：花色の配色イメージ

そんな中にあってアジサイの清々しい魅力は群を抜いています。ハイドランジアと呼ばれるピンクから紫の色調の濃い種類は別として、涼しげな装飾花（配色①）とそれらを支える大きな葉の、この時期の他の植物に比べて軽やかな淡緑色の葉色は、鬱陶しい気分を忘れさせてくれます。雨に濡れたきらめきも興をそそります。

趣の理由は色彩の心に与える影響にあります。淡い若草色の咲き始めも雨に打たれて儚く移ろう花色も、私達はすぐに思い出せます。このハーモニーの心理的に明快な清々しさの事例は、庭や園路、路面電車の線路沿いなどの身近で一般的な植栽の中にあります。これは誰もが美しいバランスを知っていることの証明に他ならないでしょう。美的に魅力的な植物であることは言うまでもありませんが、多彩さや花期の長さ、管理の容易さ故もあるのでしょう。ヒトとの距離の近い場所や集う所に植えられ、見ることも触れることも容易な場所が各地の名勝地になっていることからも、風土に合う優れて美しい植物であることが理解できます。

配色②：花色と葉の配色イメージ

日本の季節の特性を背景に、私たちの感性が最も必要な相応しいモノを選ばせているわけです。まさに感性を軸に植栽空間を組み立てている好例です。「心地良さ」を思案する時は、素直に自分の心に問えば良いということになります。日本原産であることもまた自国の気候風土をふまえた上の日本人が共感する要素であるといえそうです。

酸性にやや偏る日本の土壌に育つさわやかで軽やかな雰囲気を配色で表してみました。（配色②）梅雨のないヨーロッパの公園や庭先にはピンクや赤紫に咲くアジサイを多く見かけますが、ここに示した日本ならではの色彩イメージ＝配色はこの時期の私達を救う特別な贈り物に思えてなりません。

ところで、元来の素直な心の美意識に○×を問うためには、素直な感性を自らに溜めこんでおかなければならないわけですが、対策は簡単には見つけられません。容易なことを重ねるしかないと思っています。写真でも構わないのです。自然の中にある植物や動物、昆虫などの諸々達、美しいといわれている世界中の景を観ることではないかと思うのです。それらは無理無駄のない形とカラーハーモニーを備えています。稀に突飛な―と感じられる―色調の鳥や昆虫に出会いますが、眺め続けていると大抵はかなりモダンで粋。極めて個性的なデザインであることに気付きます。

身の周りのデザインの宝庫を大切にしたいと、つくづくと感じる次第です。

（文・写真：槇島みどり）

青年部会だより

「熊本大地震　復興に向けて」

大森樹芸園　大　森　信之介（熊本県）

4月16日、熊本大地震の本震から1年がたちました。地震後は、協会をはじめ会員の皆様からも、たくさんのご支援をいただき、本当にありがとうございました。

熊本県支部協会員のなかにも、自宅が倒壊したところや、樹木の圃場にも被害が出たところもありましたが、県内でも被害の少なかったところの協会員や他県の協会員からは、地震翌日にもかかわらず、物資などを届けて頂き、本当に感謝しきれないほどの思いでした。植木協会が単なる同業社の集まる団体ではないということを改めて感じることのできた出来事でした。

それから一年、地震直後の倒壊した家屋が並ぶ風景も、少しずつ解体作業が進み、空き地や真新しい家々の並ぶ風景へ変化してきています。熊本では今年を復興元年として、建造物や道路の再建、また、熊本のシンボルである熊本城の再建など、少しずつ、復興へ向けて前へ進んでいるところです。

そんな中、県支部会員のなかでも数名が現在も仮設住宅で生活をしています。仮設住宅は県内各所に建てられ、プレハブタイプから木造のものまで、広さやタイプも様々です。

私が利用している仮設住宅はプレハブタイプのもので、工業団地の空き地を利用し、150世帯が生活し、今年の八月で一年が経とうとしています。

仮設住宅生活を始めた当初は、先のことも決まらずいろいろな不安もありましたが、暑い夏、寒い冬を経験し一年が経とうとする今、だんだんとここでの生活も慣れ、そんな不安はなくなりつつあります。

ここで生活を始めて、まず感じたことは、隣近所との付き合いの大切さです。壁で仕切られているとはいえ、一つの建物に2・3世帯が入り生活するなかで、些細な事ですがお互い何か困ったときには、助け合う関係が自然と出来上がっています。具体例を挙げればきりがないのですが、アパートなど、隣人の顔すらわからないようなこともあるなかで、このような経験ができたことは、いい経験になったと思います。

この地震で、様々なことを経験したこの一年、前述したような私生活の面だけではなく、仕事の面でも少なからず地震の影響はあり、植栽工事などが今年は特に減ったなどの話もよく耳にします。

熊本は、復興はもちろん、これから先ラグビーワールドカップや市内中心部再開発にともなう大型複合施設の建設など様々なイベントや計画が予定されています。私たち青年部が行っている緑育出前授業はもちろんのこと、様々な形で私たちの仕事や植物の良さなどを少しでもアピールしていき、復興やそのような計画に携わっていけたらなと思います。

お知らせ

植生アドバイザー育成講座　受講生募集

講座は、全３コースで構成されており、１年目は第１段階の「A　植生調査コース」、２年目は第２段階の「B　植生景観調査コース」、３年目は第３段階の「C　植生復元・モニタリングコース」と、１年ごと段階を踏んで受講していただくことで、植生学の基礎～植生調査手法～データの分析と植栽計画の立案～植栽とモニタリングを体系的に修得できるカリキュラムが組まれています。本講座は、その優れた内容が評価され、環境省と農水省共管の「人材認定等事業」の育成事業として登録されております。

登録内容は環境省ホームページをご参照ください。
https : //edu.env.go.jp/reg/

1. **日時**：平成29年８月27日（日）～８月30日（水）
（３泊４日）
2. **内容**：
「A植生調査コース」：植生学の基礎、日本の植生、植生調査方法、野外実習、データ整理と解析
「B植生景観調査コース」：植生景観の基礎、植生景観調査方法、野外実習、データ整理と解析、景観区分図の作成と修復計画
「C植生復元・モニタリングコース」：生態学的緑化方法、植生景観計画に基づいた植栽計画、植生景観に基づく緑化工法事例
3. **講師**：植生学の専門家の先生方で実施いたします。
4. **受講料**：59,000円（税込）（３泊４日の研修費・宿泊費・食事費用等を含みます）
※早期割引：６月30日までのお申込みの方は56,000円（税込）
※協会員：55,000円

＊上記金額には、上毛高原駅までの交通費は含んでおりません。
＊講義テキスト「植生景観とその管理」をご用意願います。
＊造園 CPD に登録申請中、CPDS 認定済
5. **お問合先**：（一社）日本植木協会　☎03－3586－7361

平成29年度　都道府県別供給可能量調査　開始案内

協会事業である、都道府県別供給可能量調査を下記日程で実施します。
全支部の提出へ向けご協力お願いします。

調査期間：平成29年６月３日（土）～７月31日（月）

※６月下旬、入力用システム搭載のＣＤを支部長及び各支部ＩＴ委員にお送りいたします。
※調査結果は官公庁及び造園関係団体に CD 配布、協会のホームページで公開します。
材料調達時の参考にしていただいています。

「緑化樹木識別検定試験実施」のお知らせ

環境緑化樹木識別検定は、みどり豊かな環境形成に重要な樹木100種類の名前を正しく識別する検定です。造園等に携わる方はもとより多くの方が樹木の識別知識を習得することで緑豊かな環境を増やすことにつながります。

試験日①　平成29年７月８日（土）　13時00分～
試験会場　東京農業大学世田谷校舎
（東京都世田谷区）
試験日②　平成29年７月22日（土）　13時00分～
試験会場　愛知県植木センター（稲沢市堀之内町）
受験料　一般　8,000円　学生　4,000円
申込締切　平成29年６月30日まで
環境緑化樹木識別試験実施委員会

平成２９年度　社園別生産数量調査　開始案内

協会事業である社園別生産数量調査を下記日程で実施します。
全社園様の協力をお願いいたします。

調査期間：平成29年６月25日（日）～７月31日（月）

①協会ホームページ・会員ページにログインしIDとパスワード入力し社園別生産数量調査入力用システムをダウンロードします。
②データ入力します。
③データ入力完了後アップロード送信します。

※詳細については、別紙「入力マニュアル」を同封しますのでご確認願います。
社園IDとパスワードを6月26日（月）にFAXいたします。

名木認定申請募集について

芸術性の高い名木の認定事業を、関西ブロックを対象として募集いたします。
自薦、他薦を問いませんので、一本でも多く申請いただき、地域に埋もれた名品を発掘すると共に、地域振興の資とされますよう、ご案内いたします。

記

1. **募集地域**　北海道・東北ブロック
2. **募集締切**　平成29年６月30日（金）必着
3. **提出資料**　１）名木認定申請書
２）樹木の特徴を明確にした写真
（サービスサイズで３～４枚）
4. **費　　用**　１）第一次審査費（書類審査）０円
２）第二次審査費（現地審査）０円
３）認定板費　23,000円（１本に付）
合　　計　23,000円（１本に付）
5. **提 出 先**　〒107-0052　東京都港区赤坂6-4-22
三沖ビル３Ｆ
（一社）日本植木協会　名木認定委員会
6. **そ の 他**　１）二次審査は複数委員による現物評価を実施します。
２）申請本数の制限はありません。（申請書はコピーで増紙して下さい）
３）認定されますと、通常総会における認定証の授与、認定版の送付のほか、協会ホームページに掲載、建設物価と積算資料８月号掲載等が行われます。

コンテナ部会　国内研修会のご案内

開　　催　平成29年７月12日（水）～７月13日（木）
集合場所　秋田空港
視 察 先　秋田県（田村山林緑化農園）
岩手県（㈱小岩井農牧、㈱みちのくビオトープ、ガーデンプランツ工藤等）視察先は変更になる可能性があります。
費　　用　一人：部会員　25,000円、他　28,000円
解散場所　JR 盛岡駅・花巻空港
詳細は後日ホームページにてご案内致します。

今年も、お台場「おもてなしガーデン」に参加します。スポーツ＆フラワーフェスタ2017

平成29年８月26日（土）、27日（日）、昨年に続き、東京・お台場のシンボルプロムナード公園で行われる“スポーツ＆フラワーフェスタ2017”の「おもてなしガーデン」に当協会も参加します。

2020年の夏に開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、盛夏に強い品種を用いた修景ガーデンの展示や、真夏に元気な植物を選定するトライアルガーデンの実証実験の様子も見ることができます。

当協会は、トピアリーによる修景ガーデンを展示し、緑育出前授業実行委員会では、青年部関東・甲信越ブロックの協力のもと、和のこけ玉づくりのワークショップを出展する予定です。ぜひ、皆さま、お時間がございましたら、いらしてください。

日本列島植木植物園運営委員会　平成29度　秋の視察研修会開催のご案内

1. **日　時**　平成29年10月４日（水）10月５日（木）
2. **場　所**　豊橋～名古屋方面（視察圃場園は予定）
10／４　㈲美好緑化、㈱レコムグリーン
10／５　高敬植木園、丁直植物園、安城産業文化公園デンパーク
3. **集　合**　10／４　JR 豊橋駅　12時30分
4. **解　散**　10／５　JR 名古屋駅　14時00分
5. **参加費**　3,000円（保険料、入場料含む）
※10／４懇親会と宿泊、10／５の昼食は別途個人払い。
6. **懇談会と宿泊**：14,190円／一人（宿泊・入浴料・懇親会・フリードリンク・朝食料含む）
7. **2日目昼食**：2,160円（安城デンパークにて　混雑を避けるため限定メニュー）
8. **宿泊先**　冨士見荘（愛知県・西浦温泉）
※旅館のため、個室使用は追加料金が必要です
9. **締　切**　平成29年９月８日（金）
10. **問合せ**　弊協会　事務局中村まで　03－3586－7361

詳しい案内と申込用紙（裏面）は、別途同封しております。造園 CPD 登録申請中。

新樹種部会　第15回　新しい造園樹木の研修会のご案内「千葉県の新樹種を見に行こう！」研修バスツアー

1. **日時**　平成29年７月26日（水）（雨天決行）
2. **内容**
集合　９：00　日比谷公会堂前（東京都千代田区）
視察　常盤植物研究所（佐倉市）案内：柴田忠裕氏
ちば花と緑の会
夏のグリーンコレクション2017in ちば
（同会場　各自視察）
農場視察　グリーンファーム作佐部農場（匝瑳市）
成田ナーセリー（富里市）
解散　17：00　JR 成田駅
3. **参加費**　3,000円
（保険、昼食、クリアファイル、新樹種 CD 付）
4. **応募締切**　７月７日（金）先着順（40名まで）
5. **問合せ**　弊協会　事務局　03－3586－7361

詳しい案内と申込用紙（裏面）は、別途同封しております。造園 CPD 登録申請中。

会 員 動 向

協会・退会

▷㈲マルゴ（千葉県）

代表者変更

▷㈲成樹園（茨城県）
㈱ 新嶋和彦　　㈱ 新嶋英夫

訃　報

長谷川ハツエ様（栃木県）
長谷川園（長谷川章氏母）
平成29年５月25日没　享年90歳

石井金三郎様（埼玉県）
石井農園（石井栄寿氏父）
平成29年５月30日没　享年85歳

山中孝一郎様（兵庫県）
山中育樹園㈱（山中誠次氏の父）
平成29年６月13日没　享年86歳

平成30年度　通常総会開催のご案内

1. **開催日**
平成30年1月23日（火）
2. **会　場**
ANA クラウンプラザホテル神戸
兵庫県神戸市